

かわもとまち わたしたちの川本町



町章

川本町は江の川を中心として発展したものであり、この「川」と「水」をかたどって中央におき、周囲は「円満」「団結」「平和」を表しています。

町の木

もみじ



町の花

さつき



〈町名の由来〉

「川」は江の川の「川」であり、「本」は「ほとり」という意味で、江の川のほとりに人々が住みつくようになったため、「川本」という地名ができたといわれています。(出典：「島根県の地名鑑」)

〈沿革〉

川本町は、江戸時代中期から明治にかけて繁栄した「たたら製鉄」の生産地として早くから町が形成され、石東地方一帯の中心地でした。その背景には、中国山地の花崗岩(かこうがん)に包まれた豊富な磁鉄鉱資源と、燃料としての木炭生産が盛んであったことや、これらの集積に便利な江の川が水運路として利用され、川本町がその中継地となったことがあります。また、天領行政の開始とともに、川本が銀山領に編入され、口留番所(※)が設けられたことを機に、明治5年には郡役所が置かれ、その後、国・県の地方機関が集中したことによって、邑智郡の行政、経済の中心的な役割を担う町として発展してきました。

(出典：「島根県の地名鑑」) ※口留番所…交通の要地に、旅人や荷物の出入りを検査するために設けられた見張り所。

昭和 2年4月 邑智郡川本村 町政施行により「川本町(かわもとまち)」

昭和30年4月 川本町・川下村・三原村・三谷村・大代村 合併

昭和31年9月 祖式村の一部(川内・小谷・馬野原) 編入

*呼称について

「川本町」の呼称は、昭和2年4月1日に川本村から町制を施行した際に定めた「かわもとまち」が正式です。昭和30年前後のいわゆる昭和の大合併時に、名称を「〇〇まち」から「〇〇ちょう」に変更した自治体が増え、さらに平成の大合併後には、「まち」と呼称するのは県内で「川本町」だけになりました。

■ 町民憲章 昭和57年4月1日制定

川本町は、江の川の清流と緑に囲まれ、郡の中心として教育と文化に誇りをもつ町です。わたしたちはこのふるさとを愛し、さらに発展することをねがい、ここに町民憲章を定めます。

- 一、自然を大切にし 緑と水の美しい町をつくります。
- 一、健康でたのしい家庭をきずき 明るい町をつくります。
- 一、力を合わせ産業を育て 豊かな町をつくります。
- 一、親切でたがいに助け合い あたたかい町をつくります。
- 一、感謝の心を忘れず社会につくし 住みよい町をつくります。

かわもとまち

わたしたちの川本町

